NPO地球の緑を守る会/〒158-0097世田谷区用賀4-34-12グリーンハウスNo.2—231号/Tel:03-5717-9358Fax:03-5717-9359/ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞhttp://midori.mond.jp/

フォレストニュース

植林が地球を救う
平成28年(2016)7月10日
No.103
発行　高津啓洋

春を迎え様々な花の饗宴

レダは、春の訪れとともに一斉に花が咲きだします。

上は前回も紹介した、南米桜と日系人が呼んでいる、ピンクのラッパチョと白いラパッチョ。時期は少しずれますが、黄色い花のラパッチョもあり、大変に華やかです。

下の左の花はパロアスールと言って、糖尿病にいいと現地では、街中でも簡単に手に入って、普通に煎じて、飲まれています。

下の右は、だれもがおいしいというマンゴーの花が一斉に咲きます。食べごろは１１月からです。レダでは、鳥が一斉にきて、このマンゴーをついばむために、硬いプラスチックの容器で守っています。（伊達　記）

パラグアイ訪問記

イエズス会の伝道の村（世界遺産）に行くことを願ってました。１８世紀の南米で、スペイン・ポルトガルの植民地政策の真っ只中で、カソリックの悪習を打ち破り、キリスト教の真の姿を追求した修道士達イエズス会の活動拠点の「伝道の村（ミッション）」を是非今一度見たかったからです。

１８年前位に行ったことがあるのですが、あまり記憶にはなかったもので、これを機会にもう一度いってみたいと思っていた所でした・この[伝道の村]そのものに、神の国・理想郷の原型を見出されるような感じでした。教会を中心として、原住民の住居・学校・集会所等を整備しながら、信仰を指導し、仕事等指導しながら、当時未開の原住民たちをヨーロッパの人たちにも負けないような教育を施したのです。まさに地上天国・神の国の建設をしていたのです。しかしながら当時金銀に目のくらんでいたスペイン・ポルトガルの政策の下、イエズス会が撤退せざるを得なかったということは、神様の摂理を大きく遅らしてしまったことになったのでしょう。それにも増して、当時のローマ教皇庁がスペイン・ポルトガルと対等に渡り合って、信仰の自由・神の国建設を前面に出していたならだ、今の南米はどのようになっていたのであろうかと、静かに考えさせられました。

ベラビスタ・トリニダードには一人で行かざるを得なかったのですが、それなりにいろいろなものを知ることが出来ました。

また、感動した一つに、現地の日本人移民者達が、苦労して互いに助け合って開拓し成功してきたのだ、と言うことです。
（北中忠男　記）

［お知らせ］東京でのセミナーは、2016年8月6日（土）「ここまで来た地球環境」高津理事長のフィールドワークを含めた実践的環境保護セミナーの開催です。